

いつもお世話になっています。世の中には子供たちを教える教育法というものがあふれていますが、そのうちいくつかを考えてみたいと思います。

まず現在の公立学校での教育法です。かつては明治時代に欧米から直輸入した教科という区切りを使って能率よく労働者を育成するプログラムがメインになっていました。教師が前に立って知識を伝達し、それを記憶していくというものです。この教育法は昭和の高度経済成長期にピークとなり、現在はほとんどの進学塾に直接受け継がれています。テストを繰り返しそのたびに席順を入れ替え同年代の生徒と知識を競い合わせます。こんな時代遅れの狂った教育法がまだ健在なのは高度経済成長期を過ごし、その教育法の中で成長した人間が社会の中心にいるからです。そういう50代から60代の人間に影響を受けて「ちょっとおかしいな」と思いながらも彼らは成功したんだからと思う30代から40代の人達の子供によって繁盛しています。高度経済成長期はその時代の人の努力でそうなったわけではなく世界史的な流れの中で日本が経済成長できる順番に当たっただけです。過当競争のつめこみ教育のおかげで成功したわけでは決してありません。特に男親は直接の上司がその年齢だったりするのでこのような世界的に化石化した教育法に魅せられてしまっています。ちなみにいまだにこれをやっているのは今高度経済成長期にある韓国と中国だけです。

その後公立学校はあまりの受験競争の過熱と知識だけのイエスマンはいらないという声が産業界から上がったため30年ほど前からゆとり教育を開始しました。ゆとり教育というのは勉強をしないわけではなく、教科で区切られた学習を減らしてその分自分自身で課題を見つけて自ら行動する人間を作ろうという教育法です。例えば、「地域を見て回り、危ない箇所があればそれを行政に伝えるために資料を作って発表の練習をし、実際に市役所に行って請願する。」というような行動をすることで国語や社会や技術などあらゆる教科の枠を超えて知識技能を磨いていくというものです。これが「総合学習」の理念です。そのためには関心・意欲・態度が最も重要だと考え、今までの教科学習の中でもそれを重視することを、評価の仕方でも明確にすることになりました。だから通知表の最初の欄はどの教科も関心・意欲・態度が一番上にきているのです。ゆとり教育が徹底的に自民党によって攻撃されている今の世の中では信じられないかもしれませんが、この教育法はこんな素晴らしい理念のもとに誕生したのです。ヨーロッパなど他の先進国ではこの教育法が主流ですが、日本とアメリカはゆとり教育、つまり総合学習型教育法を放棄しました。

ではなぜ日本では失敗と言われたのでしょうか。それはいたって簡単で知識伝達型で慣れてきた教師が全く対応できなかったからです。ゆとり教育が始まった時代は、ゆとりの研究をするという理由で学校から早く下校させられました。その結果暇を持て余した生徒が校外で暴れて警察のお世話になるという事態になり、全国的に「荒れる学校」があふれます。もう研究どころではありません。授業を成り立たせるだけで精いっぱい、放課後は毎日生徒を警察に引き取りに行くということになってしまいました。やる前に現場が崩壊してしまったのです。文部省はその後も現場の状況は考えずにその理念のみを上からどんどん流します。総合学習がうまく機能していないのに教科書だけが薄くなっていったのです。最後には遠足や社会見学といった今まであった行事を総合学習に充てる学校も出てくるような有様でした。機械的な暗記を絶対視する化石教育法から抜け出せない一部教師はゆとり教育は間違っていたという言葉にほっとしていることでしょう。

しかし、多くの教師はこの理念をもとに実践した経験が少なからずあるので、決して以前の詰め込み教育に戻ることはありませんし、文科省の方針も詰め込み教育には向かっていません。どの進学塾も総合学習の経験のある講師はいませんので、公立学校の教育法を理解していません。だから異様に長い時間を使って監禁学習させることで無理やり知識を詰め込むしかないので。そういう子供たちは本当に不幸で、ここで週1回来るレベルで十分対応できることを週3回4回と来させられているのです。しかもやればやるほど学校とずれていくので、学校でやっていることの意味が分からず授業中居眠りをしたり塾の宿題をしたりするのです。例えば数学で「この問題がわからない子にどう説明したらいいのか」という問いがあったとします。そうすると意欲関心の高い生徒は、その子はどこがわからないのか考えます。問題の日本語の意味か・計算の仕方がか・立式の仕方がかなど考えるポイントはいくつもあります。しかし、テストの点しか興味のない詰め込み教育で洗脳された生徒はこの問題をする意味が分かりません。自分は解き方が分かって答えが出せるのに、なんでそんなことを考えないといけないのかと思ってしまいます。その結果内申で一番重要な関心意欲態度の項目がペケになります。月に5万円も進学塾に支払ってたくたになるまで勉強させられてこれでは本当に目も当てられません。ところで皆さんはこの問いの学習目標がわかるでしょうか。勉強は自分のためだけにするのではなくその得た力を他の者のために生かすのだという基本的理念がまずそこにはあります。そして、問題で引っかけやすいポイントを整理していくことで自分自身ミスが減り、また違う見方に触れることで数学的思考の幅が広がっていきます。手を抜かずに現在の公教育の教育法をやればこうなるのです。この先徐々に総合学習の時間の分が教科学習に回されて教科書がぶ厚くなっていきますが、基本的な考え方はこの先も総合学習を引き継いでいきます。

進学塾の巧妙な宣伝に騙されてはいけません。高度経済成長期の神話に洗脳された人たち（東京オリンピックを喜んでいる人たち）の言うことなどほっておきましょう。監獄のような塾から子供達を救うために労働基準法を子供の勉強時間にも適応しないとイケないと本気で思っています。

結局2つしか教育法を紹介できませんでしたが、また来月ということで。